農作物技術情報　第２号　畑作物

発行日　令和４年　４月　２１日
発　行　岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編　集　岩手県農林水産部農業普及技術課　農業革新支援担当（電話　0197-68-4435）

携帯電話用 QR コード

「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/」

◆　小麦　　融雪後、気温が平年並み～やや高めで経過したことから、生育は順調で、生育ステージは平年並みで経過しています。
減数分裂期以降の後期追肥や赤かび病防除については、それぞれ生育ステージを確認して準備を進め、適期に行いましょう。

◆　大豆　　排水対策を早い時期から実施して、圃場条件を整え、適期播種に努めましょう。

小麦

１　生育状況

県内の根雪期間は概ね平年並みとなり、３月中旬に融雪となりました。融雪後、気温が平年並～やや高めで経過したことから、生育は順調で生育ステージは平年並みで経過しています（写真１、２）。

今後は作業が水稲などと重なることから、除草剤散布や減数分裂期以降の追肥、赤かび病の防除等は、生育状況を確認しながら計画的に行います。

写真１　昨年の幼穂の状況（R3.4.16）
左：ゆきちから４㎜　右：ﾅﾝﾌﾞｺﾑｷﾞ３㎜
（R３は平年より３日程度早い生育）

写真２　今年の幼穂の状況（R4.4.15）
左：ゆきちから２㎜　右：ﾅﾝﾌﾞｺﾑｷﾞ２㎜
（R４は平年並みの生育）

２　病害の発生状況

雪腐病は、融雪がやや遅かった県北部地域を中心に発生がみられました。コムギ縞萎縮病・ムギ類萎縮病の発生は、連作の「ナンブコムギ」を中心に多発生となっている圃場がみられ、茎立ちが遅れている圃場もみられました。

３　今後の管理

（１）排水対策

圃場の排水口や明渠の点検補修を行い、スムーズに排水できるようにします（写真３）。

写真３　明渠からの排水が確実に圃場の外へ流れるよう、排水口を掘り下げます。ゴミなどが溜まっていると、スムーズに排水できなくなりますので、点検し、取り除きます。

（２）雑草防除

連作圃場を中心に、すでに雑草が見え始めています。圃場の中に入り、小麦をかき分けて発生を確認しましょう。茎葉処理除草剤を上手に使用することで、その後の作業が容易になります。

（３）後期追肥の実施

減数分裂期以降の窒素追肥で、子実の充実とタンパク質含量の向上を図ります。

生育量や品種によって追肥の有無、時期、量が異なりますので表１を参考にしてください。

追肥の対応は、減数分裂期に生育栄養診断を行い、その結果に基づいて追肥量を判断しますが、地力を考慮し、圃場にあわせた判断が必要となります。

表１　減数分裂期における生育目標値（上限値）と追肥対応

品種		ナンブコムギ（目標値）	ゆきちから（上限値）	銀河のちから（目標値）
診断項目	草丈(cm)	55～65	55	
	有効茎数(本/㎡)	450～550*	500*	600 未満*
	葉色（n-1 葉の SPAD 値）	36～44*	47	55 以上
指標・追肥対応	目標値（上限値）を超えるとき	追肥しない	穂揃期に窒素成分で 2kg/10a	穂揃期に窒素成分で 2kg/10a
	目標値（上限値）の範囲内のとき	減数分裂期に窒素成分で 2kg/10a	穂揃期に窒素成分で 4kg/10a ※水田転換 1～2 年目で堆肥を施用していない場合 4～6kg/10a	止葉抽出期～穂揃期に窒素成分で 4kg/10a

注)*印は、追肥対応のための主要な診断項目。減数分裂期は、約半分の有効茎の止葉の葉耳が出た時期を目安とする。

（４）赤かび病の防除

開花始期～盛期に必ず薬剤防除を行います。2 回目の防除は 1 回目の防除から 7～10 日後に行います。曇雨天が続く場合には、さらに追加防除を行います。小麦は出穂してから 1 週間～10 日程度で開花しますが、気象条件によってその期間は変動します。このため、開花の観察をこまめに行い、適期防除に努めます。また、罹病穂の抜き取りは穂が緑色で判別しやすいうちに行います。

表２　赤かび病抵抗性に応じた小麦奨励品種別の防除適期

品種名	赤かび病抵抗性	防除適期		
		開花期 （1 回目散布）	1 回目散布の 7～10 日後	2 回目散布の 7～10 日後
ナンブコムギ 銀河のちから	中	必須	曇雨天が続く場合 追加散布	－
ゆきちから ネバリゴシ	中	必須	必須	曇雨天が続く場合追加散布

大豆

１　圃場の選定

３作以上の連作圃場、雑草の多発圃場、排水不良圃場への作付けは避けます。

２　過度な連作防止

過度な連作による病害虫の蔓延、地力の低下、雑草の多発などが問題となっています。マメシンクイガ、ダイズシストセンチュウ、黒根腐病などは、大豆の連作により発生リスクが高まりやすい病害虫です。

また、大豆２作程度に対し、水稲２～３作程度が地力維持、病害虫対策の観点からバランスがよいという報告があります。堆肥の利用や輪作、水稲とのブロックローテーション等、長期的な展望を持って、計画的な土地利用に努めてください。

３　排水対策

大豆は初期の湿害が収量、品質に大きく影響する作物です。初期生育が順調であれば、その後の生育も良好に経過します。額縁明渠や弾丸暗渠等は、播種直前ではなく圃場が乾いている時期に余裕を持って行うと、排水効果はもちろん、播種前の整地作業等の準備もスムーズに進みます。

４　播種適期

播種期は、出芽時に晩霜の心配のない頃を播種早限とし、霜による強制登熟で未熟粒が多発する心配のない頃に収穫できる播種時期を播種晩限と設定します。概ね、県北部では５月中下旬、県中部では５月中旬から６月上旬、県南部では６月上中旬が播種適期となります。

５　適正な栽植密度の確保

畦間は 70cm 程度を標準としますが、中耕培土等の中間管理や、収穫に用いる機械の幅に応じて作業が効率的に行えるように設定します。品種ごとに好適な栽植密度とするためには、株間の調整が必要です(表３)。

表３　普通大豆の品種別栽植密度と播種量

項　目	ユキホマレ	ナンブシロメ	リュウホウ	シュウリュウ
栽植密度(本/10a)	2万～3万	1万～1万2千	7千～1万5千	1万～1万5千
畦間×株間(cm)＊	70×14～9 30×30～22	70×30～24	70×40～20	70×30～20
播種量(kg/10a)	6～9	2.5～3	2.5～5	3.5～5.3

注）＊は、畦間を 70cm、1 株 2 本立てとした場合を示した（ユキホマレの狭畦密植栽培を除く）。
「ユキホマレ」の麦後栽培では畦間 30cm 前後の狭畦密植栽培とする。
「リュウホウ」は、播種期により栽植密度を調整する（晩播ほど密植とする）。

春の農作業安全月間　［４月１５日～６月１５日］

「農作業　ゆとりと声かけ　二刀流」

山火事防止運動月間　［３月１日～５月３１日］

「山火事を　防ぐあなたの　心がけ」

岩手県では例年３～５月に、野山が乾燥し、野焼きが原因と思われる林野火災が多発しています。
やむを得ず野焼きを行う場合は、消防署に届け出たうえで、火の取り扱いに十分注意しましょう。

次号は５月 26 日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。
農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。